

教育の内部質保証システム構築に関するセミナー

筑波大学における教育改革と 質保証の試み

2013.3.21

筑波大学 教育企画室長

石 田 東 生

ishida@sk.tsukuba.ac.jp

話の概要

- 筑波大学の教育の特徴
 - 建学の理念、教教分離、学位プログラム、カリキュラム構成
- 筑波大学の教育改革とそのアプローチ
 - 筑波スタンダード
 - 筑波大学FD
 - シラバスとGPA
 - TA/TFの活用
- 終わりに

筑波大学の教育の特徴

- 建学の理念
- 教教分離と学位プログラム
- 科目とカリキュラムの構成

筑波大学・建学の理念



筑波大学は、基礎および応用諸科学について、国内外の教育・研究機関及び社会との自由な、かつ、緊密なる交流を深め、学際的な協力の実をあげながら、教育・研究を行い、もって**創造的な知性と豊かな人間性を備えた人材を育成**するとともに、学術文化の進展に寄与することを目的とする。

従来の大学は、ややもすれば狭い専門領域に閉じこもり、**教育・研究**の両面にわたって停滞し、固定化を招き、現実の社会からも遊離しがちであった。本学は、この点を反省し、あらゆる意味において、**国内的にも国際的にも開かれた大学**であることを基本的性格とする。

そのために本学は変動する**現代社会に不断に対応しつつ、国際性豊かにして、かつ多様性と柔軟性を持った新しい教育・研究の機能及び運営の組織を開発**する。更に、これらの諸活動を実施する責任体制を確立する。

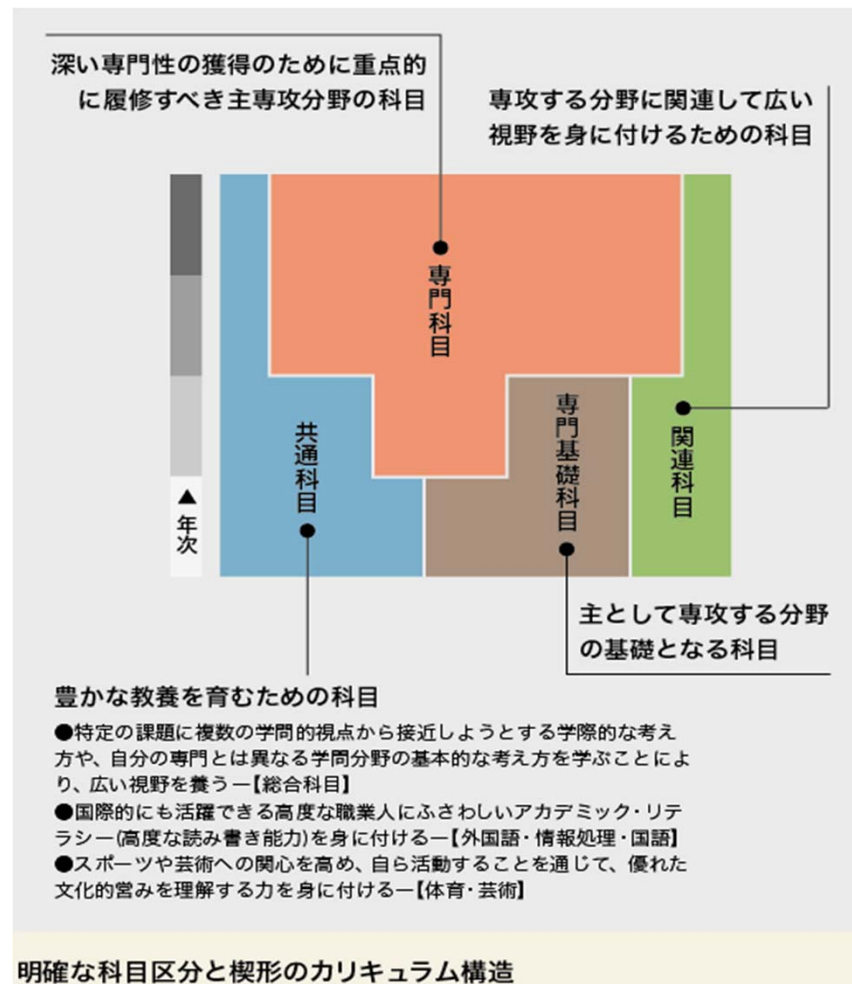
筑波大学の創設： 1973年10月

教教分離と学位プログラム

- 開学当初から2000年——**教教分離**
 - 学系と学群・研究科
 - 学群・学類、研究科は学位プログラム
 - 社会工学、人間、自然、・・・
- 2000年から2011年——**大学院重点化時代**
 - 大学院専攻と学群・研究科(改組)
 - 学位プログラムも一部ディシプリン型へ
 - 例えば、人間学類→ 教育、障害科学、心理
自然学類→ 数学、物理、化学、地球科学
- 2011年から ——**再び、教教分離**
 - 系・域と学群・研究科
 - 全学的に、学位プログラム化を目指す(DP,CP,APの確立と質保証)

筑波大学の科目構成とカリキュラム編成の特徴

科目の性格



履修の方法

専門的科目
(専門科目・専門基礎科目)

×

必修・選択・自由

教養的科目
(共通科目・関連科目)

×

必修・選択・自由

学生の興味と関心に応じて、

幅広い学びが達成できる
仕組みとなっているが、
実態は・・・？

筑波大学の教育改革とそのアプローチ



どう実現するか

教職員・学生・組織をどう動かしていくか
成果をどう見える化するか
必要なインフラをどう整備するか

筑波スタンダード
筑波大学FD
シラバスとGPA
TA／TFの活用

以下、簡単に説明

3つの筑波スタンダード



筑波スタンダード(学士課程)
教養教育スタンダード
大学院スタンダード(全学版)

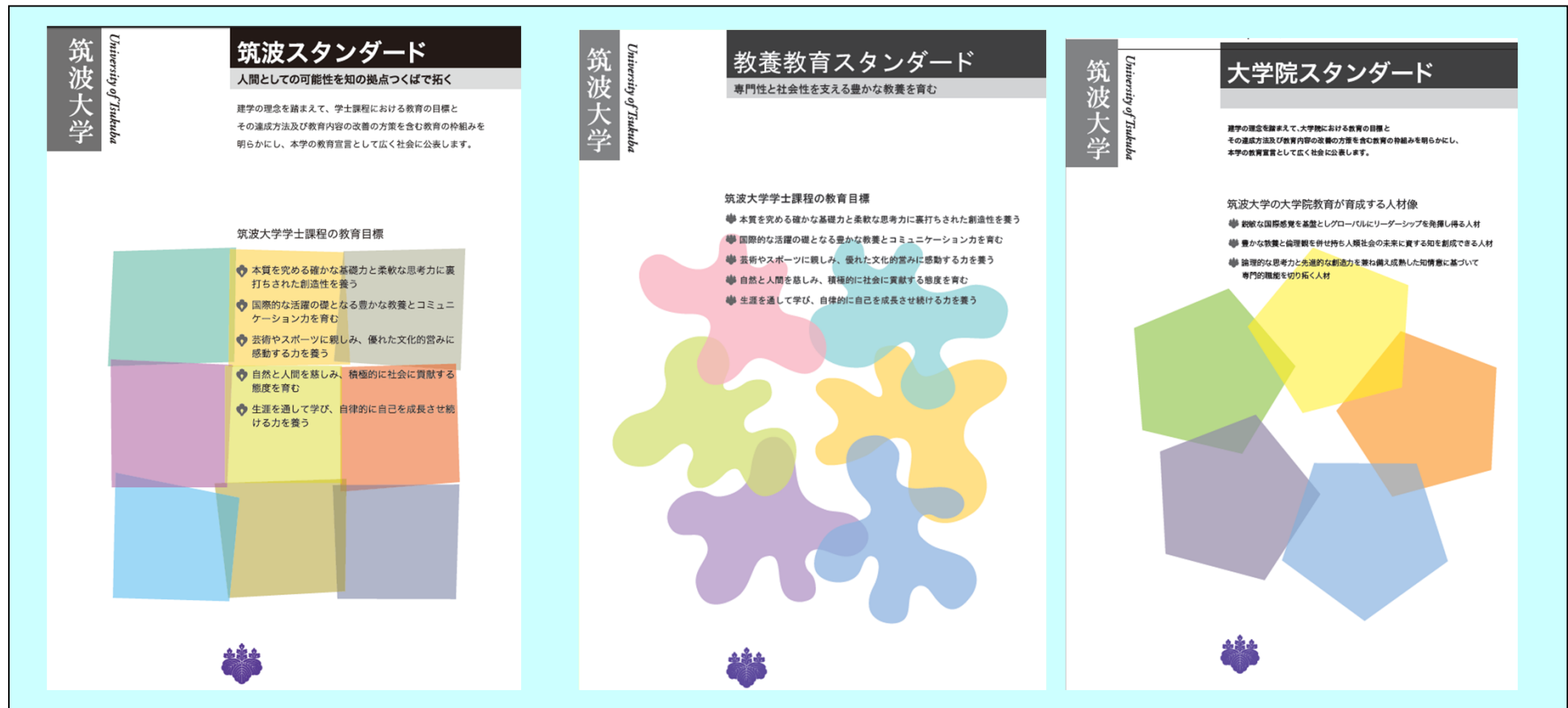
2007.3

まもなく改訂版

2011.3

2011.3

まもなく部局版



筑波スタンダードの公表と活用

建学の理念を踏まえて、筑波大学における教育の目標とその達成方法及び教育内容の改善方策を含む枠組みを明らかにし、本学の教育宣言として広く社会に公表します

3つの機能

教育宣言 教育目標・達成方法・教育内容の改善方策

認識共有 教育の質の向上にむけた、
構成員の議論・活動のプラットフォーム

説明責任 説明責任を果たすためのシステム

立ち返るべき原点

学群・大学院スタンダードの改訂

改訂版 学位プログラムの重視

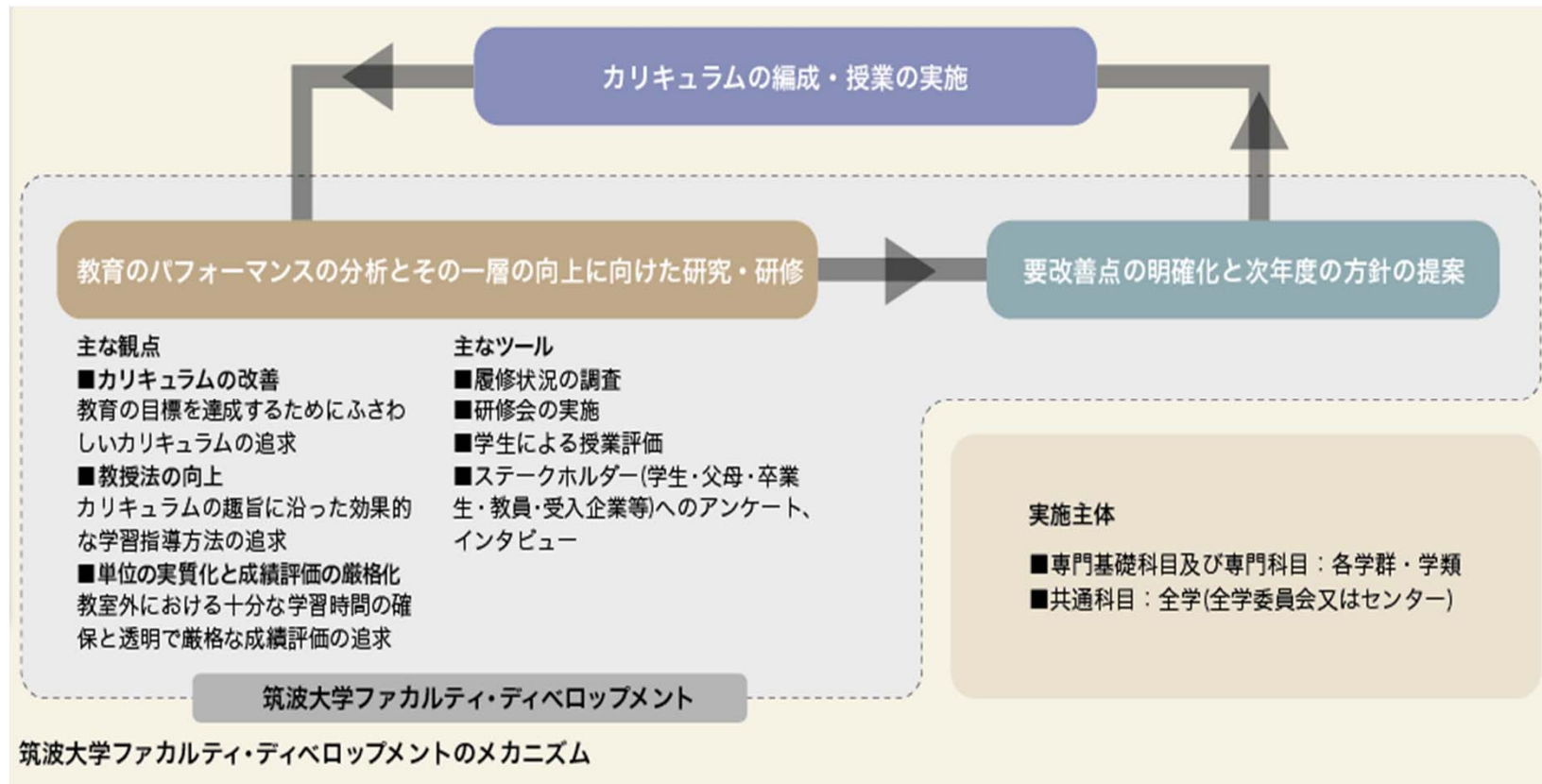
- 人材養成目的(学群と学類、研究科と専攻)
 - 卒業生の進路も同時に示す
- DP 学位授与の方針(学位毎)
- CP 教育課程編成・実施の方針(学位毎)
- AP 求める人材(学類・専攻毎)
- 教育の質の保証と改善の方策

現出している効果

学位数についての議論

大きな学位(理、工、農、...)についての研究科・専攻横断的議論

- 特長
- 広義のFD： 教育改革・向上を目指す
 - PDCA (Plan-Do-See) サイクルの明示
 - データ主義



筑波大学FDの例

総合科目の履修の偏り

心理学類(人間学群)／
化学類(理工学群)開設科目
の各学類からの履修状況

心理学類開設科目

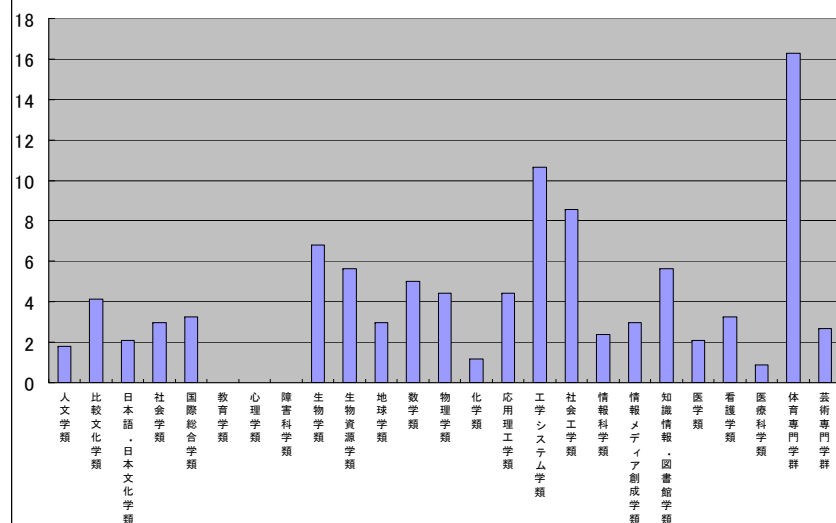
人間系3学類からの履修は禁止
多くの学類からの履修

化学類開設科目

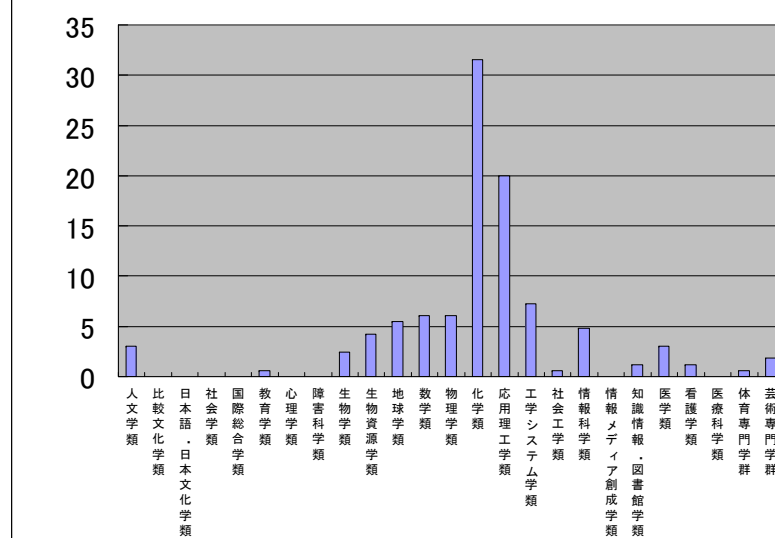
理工学群からの履修が多い
化学類が最大グループ

学生は放置すれば得意科目のみ履修
総合科目の履修方法の変更

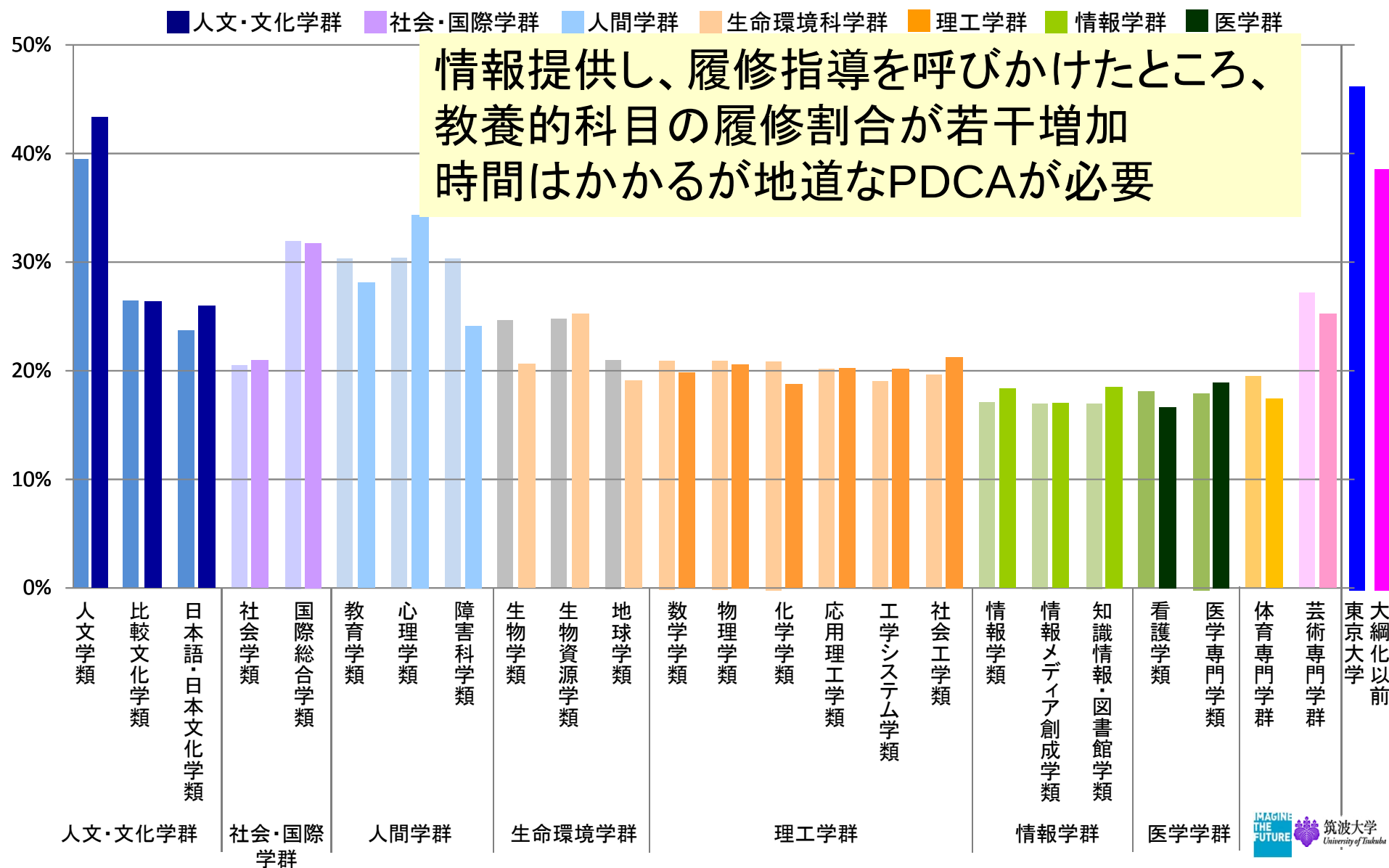
心理学類開設科目



化学類開設科目

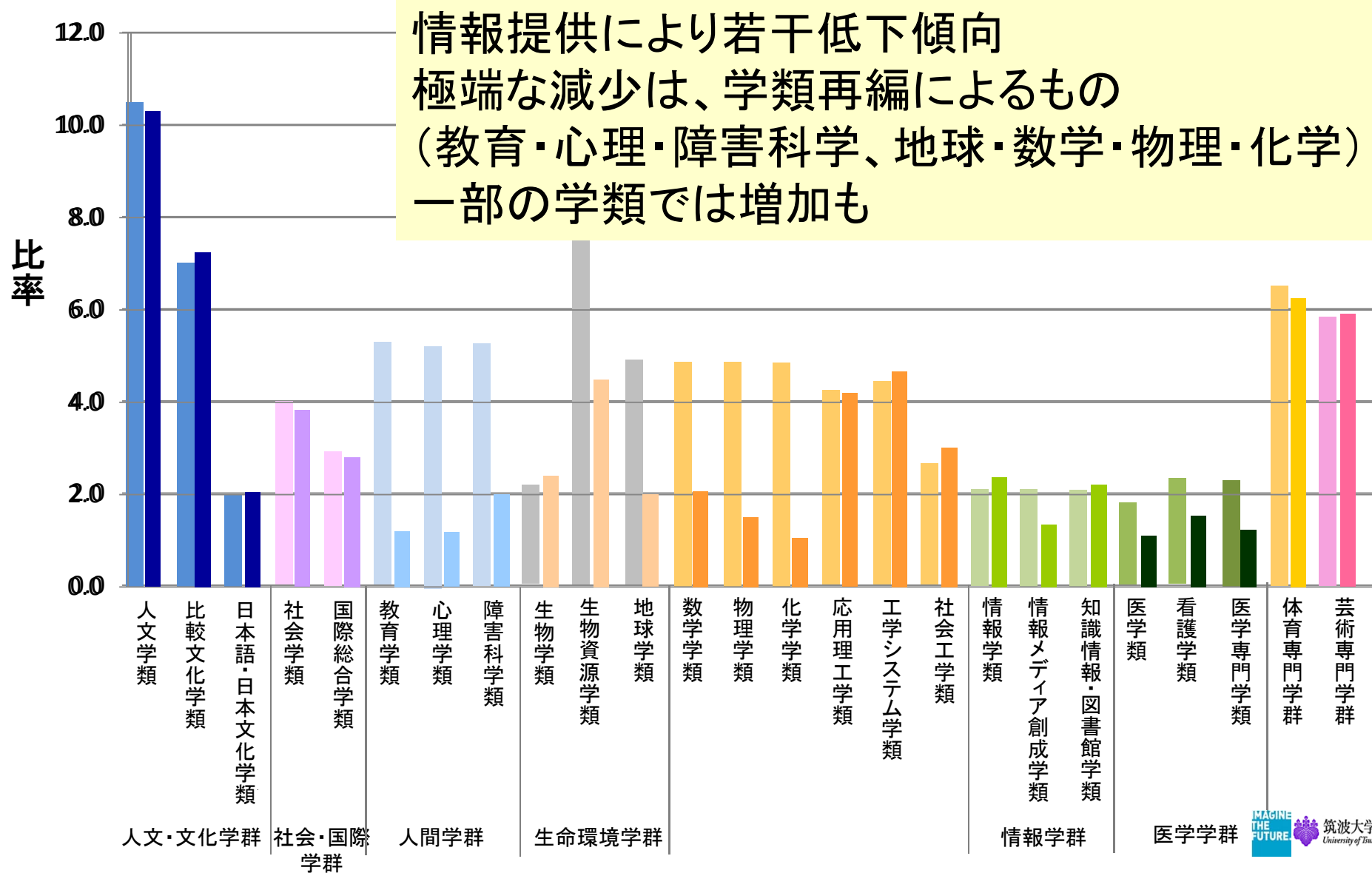


卒業生の教養的科目の単位修得割合の比較(平成19年度一平成23年度)



学類別 開講総単位数／最低履修単位数

(平成23年度
(平成19年度))



シラバスとGPA

- 経緯
 - 2010年にシラバス作成ガイドを作成
 - 必須項目とベストプラクティスを紹介
 - 到達目標と評価方法は必須
 - 2013年度入学生よりGPAを導入
- 質の保証から見た特徴
 - GPAの分布(成績評価の分布)の目標を学類毎に定める
 - 実際の分布は学期毎に公表
- 成績評価とシラバスとの連動
 - 例 成績評価分布が甘い → 到達目標を高く再設定
 - 一部の学類では実施中(生物学類、知識情報・図書館学類、...)であり、BPとして全学へ紹介

TA研修

TA・TFの目的と機能

教育の質向上
学生へのキャリア支援
学生への経済的支援

キャリア支援の場として重要。

コミュニケーション力
企画
責任と自覚

制度化

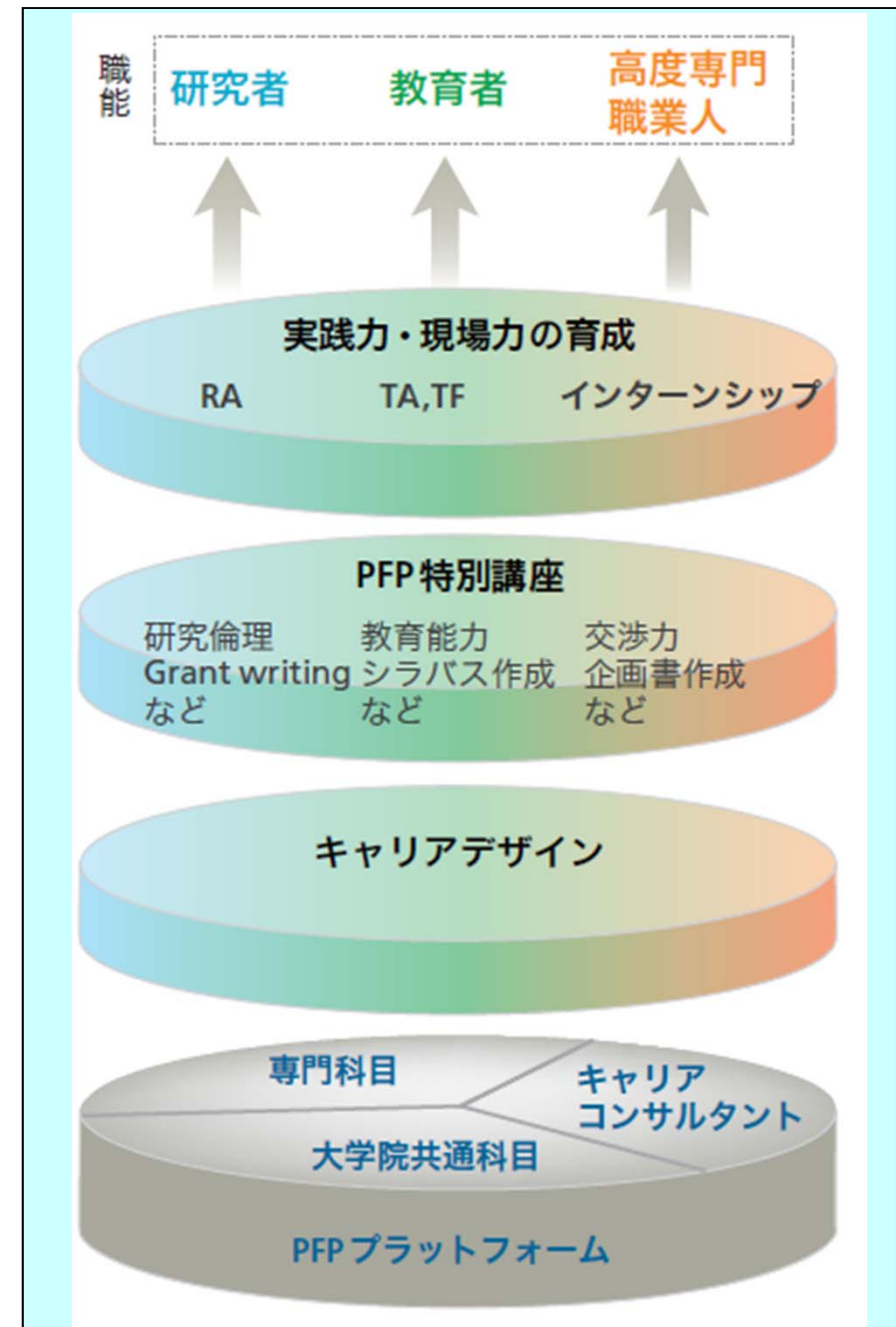
2006.3 TAの取り扱いについて(学長裁定)

TA研修会の全学的開催

近未来に義務化
TF(高度TA)制度

TA活用教育プロジェクトの開始

TAを活用した教育プログラム、
TAの研修プログラムの開発と全学への展開



TA研修プログラム概要

- 2010年から毎年度1－2回
- 目的
 - TAの役割と任務の理解
 - TAに必要なスキルの習得 (選択)
 - A) 新しい機器の使用(クリッカー、Moodle)
 - B) レポート採点方法
大型授業でのレポート採点の厳格化
 - C) 議論のファシリテーション
- プログラム拡充中
- 参加者数
 - 毎年 100－110名程度
 - 大学院生(80－90名)と教職員(20－30名)

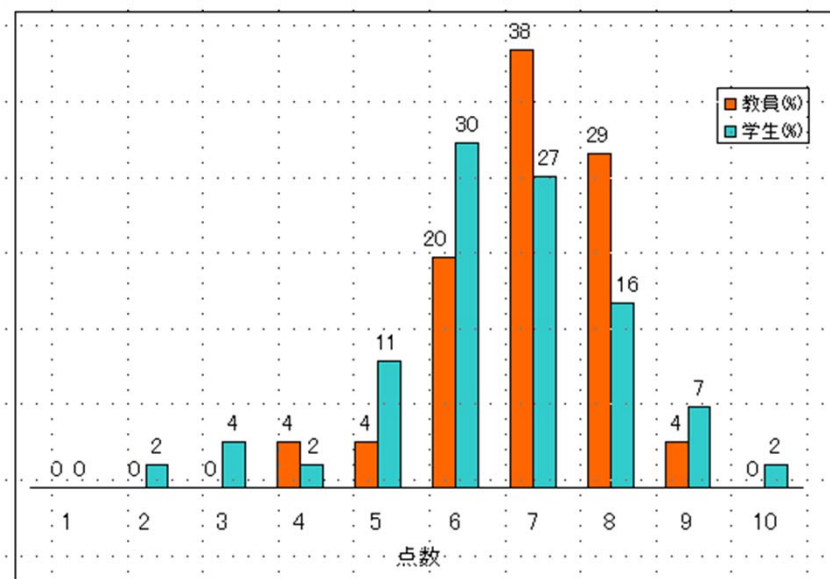


TA研修会とFD研修会における実験

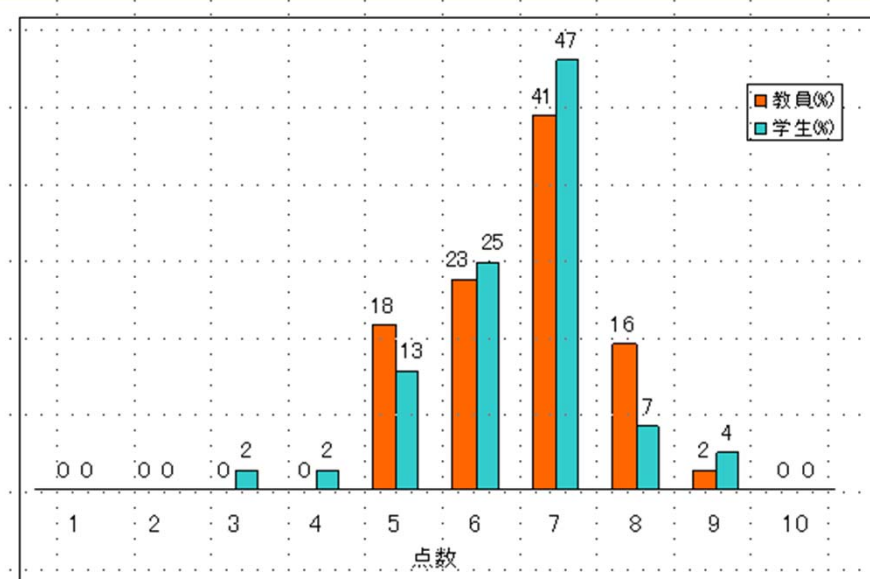
対象：70名の大学院と80名の教職員（2010.10.29開催のTA研修会とTAに関するFD研修会）

手順：

1. 参加者に同じレポートを説明なしに10点満点で採点評価するよう依頼
2. 結果をクリッカーにより即時集計
3. 採点基準を配布
4. その後、採点基準に従って採点するよう依頼



採点基準開示前 平均6.7 SD1.4



採点基準開示後 平均6.5 SD1.0

採点基準開示前後で評価のばらつきは減少
特に開示後は大学院生と教職員でほぼ同じ分布

最終的には教員が評価するが、
TAの採点補助は可能では

終わりに

- 筑波大学の成果
 - 枠組みとツールは出来つつあるし、成果も一部で出始めている
 - スタンダード、筑波大学FD、TA/TF
 - 見える化と公表は大きな武器
 - しかし、まだ一部に留まっている
 - ツール、メカニズム、ノウハウは整備されつつある
 - 教育から見た組織評価 → 重点化 といった展開が期待される
- 今後の挑戦
 - FD活動のより一層の充実
 - スタンダードの活用
 - 学生の巻き込み
 - ICTによる大学内データのフル活用
 - 大学内には未活用データが一杯
 - 見える化による課題認識・方向性の共有
 - トップによるビジョン、ミッションとパッションの訴えと、ディスカッション
 - 参考 日立製作所の中西社長は年回40回以上のタウンホール活動

ご清聴、ありがとうございました。